

SR-S316C2 V03. 00 変更内容一覧

□機能追加

No.	項目	内容
1	リンクアグリゲーション	LACPをサポートする。
2	STP	MSTPのリージョン間接続をサポートする。
3	QoS	VLAN単位にフィルタ/QoSを設定可能にする。
4	IGMPスヌープ	GMPスヌープで以下の改善を行う。 (1)querier動作のON/OFF querier動作のON/OFFをコマンドで設定可能にする。 (2)querier動作のコマンドでの表示 show igmpsnoop でquerier動作の状態を表示する。 (3)Leave Groupメッセージ受信時の動作の変更 Leave Groupメッセージ受信時にquerierかどうかによって動作を変えるよう変更する。
5	運用コマンド	commit実行時の定義矛盾のsyslogを、commitを実行した端末に表示する。
6	QoS	COSを書換えないQoS機能をサポートする。
7	VLAN	802.1X/WEB認証/MAC認証の認証ポートに対してMagic Packetを転送する機能をサポートする。
8	MACアドレス認証	受信したパケットのMACアドレスで認証を行なう機能をサポートする。
9	802.1X/WEB認証	802.1X, およびWeb認証で、RADIUSサーバからVLAN IDが通知されなかった場合、現状、1固定であるVLANをポート単位に設定可能にする。
10	SNMP	SNMPからの回線の接続/切断指示機能サポート MIBのinterfaceグループのifAdminStatusのset機能をサポートする。set可能なifIndexは7000番台(物理ポート)のみ。
11	BCM-SWDライバ	1Gbpsポートでの10Mbpsをサポートする。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V02.00	MSTPリージョン間接続構成で、リージョン内のインスタンス定義変更を繰り返すとloop検出してしまう場合がある。
2	V02.00	MSTPリージョン間の経路変更でloop検出してしまうことがある。
3	V02.00	show interfaceを実行したときにProxy ARPの表示内容が不正になることがある。
4	V02.00	clear statisticsを実施しても、lo0に対応するifXEntryのifCounterDiscontinuityTimeが0のままとなる。
5	V02.00	出力対象プライオリティ設定を削除してもシステムログが出力される。
6	V02.00	IGMP Snoopを動的定義変更で有効にした場合、マルチキャストリスナとして登録されないVLANが存在する。
7	V02.00	次ようにacl ipでIPv4送信元アドレスやIPv4送信先アドレスに0.0.0.0を指定し、かつ、マスク長に1から32を指定する定義を行う。 この定義をshowを表示させると、0.0.0.0/マスク長ではなく、anyと表示される。 ・acl 0 ip 0.0.0.0/4 any ・acl 0 ip any 0.0.0.0/4
8	V02.00	dot1dTpFdbグループのINDEX値が不当な値となる。
9	V02.00	TCPを利用するアプリケーションが機能停止状態になる場合がある。
10	V02.00	INDEXとしてゼロをとり得るMIB値の場合、GET-NEXT要求で適切なMIB値が取得できない場合がある。
11	V02.00	IPフィルタにて、IP payloadが1 octetしかないICMPパケットの場合に、ICMPフィルタ条件があっても透過する場合がある。
12	V02.00	同一のMACアドレスにて動的学習エントリと隠しVLANでの内部学習エントリが存在する場合にdot1dTpFdbAddressで該当エントリが取得できない場合がある。
13	V02.00	「table over flow.」メッセージで表示されるlan番号が0となる
14	V02.00	Web認証成功したポートにおいて、Web認証成功前に適用されていたフィルタ/QoS設定が、Web認証解除後に復活しない。
15	V02.00	SR-S716C2/316C2において、フィルタ/QoSが設定されない場合がある。
16	V02.00	Web認証にて、認証割当されたVLANが、tagged-vlanなどでポートに定義されている場合に認証失敗とならない。
17	V02.00	認証ポートにて端末認証状態からVLAN定義を変更した場合に認証端末が通信できなくなる場合がある。
18	V02.00	telnet接続でログインし、更にtelnetコマンドで他装置にログインしているとき、コピー&ペーストやファイル送信等で大量のテキストデータを送信するとデータ抜けが発生する。
19	V02.00	Web認証とリンクアグリゲーションが共存可能になっている。

20	V02.00	MSTP使用時にether use on/offを繰り返すとメモリ使用量が増加していく。
21	V02.00	コマンド名補完において、マニュアルに記載されていないコマンドが誤って表示される。
22	V02.00	非認証状態の認証ポートにて受信したWake On LANパケットを転送してしまう。
23	V02.00	vlan nameコマンドにて定義済みのVLAN名称を再設定すると二重定義エラーとなる。
24	V02.00	STPトポロジチェンジ発生時のL2Macアドレス学習テーブルクリア処理を次のように変更する。 STPのトポロジチェンジ発生時に下位装置からTCN BPDUを受信したタイミングでL2Macアドレス学習テーブルをクリアしていたが、Root BridgeからTCフラグ付きBPDUを受信したタイミングでL2Macアドレス学習テーブルをクリアするよう変更する。
25	V02.00	STPのトポロジチェンジ発生後、トポロジ安定状態でも通信復旧までに時間が掛かる場合がある。
26	V02.00	802.1X認証を繰り返したときマニュアルにないログが出力される。
27	V02.00	VRRP-AD受信ポートが移動したにもかかわらず、ARPのポートが移動しない場合がある。 これによりVRRP-ADを中継しているSR-Sと通信ができなくなる場合がある。
28	V02.00	fragmentされたIP option付きの自装置宛パケットを受信した場合に、正しく処理できない場合がある。